

令和2年度 福井県長寿医療運営懇話会概要

日 時 令和2年11月19日(木) 午後2時00分～3時30分
場 所 福井県自治会館 2階 202・203研修室
出席者 奥西会長、重久副会長、安川委員、近藤委員、水上委員(代理)、宮本委員、
小川委員、長谷川委員、五十川委員、山田委員
(欠席委員) 山本委員、松山委員
アドバイザー 福井県健康福祉部健康政策課 平井課長(欠席)
事務局 向出局長、高村次長、栗原課長、 他7名

1 会長挨拶

新任委員・新任職員紹介

2 協議・報告事項

- (1) 令和2・3年度保険料率の改定について
・・・・・・・・・・資料1により事務局説明(課長)
- (2) 令和元年度決算の概要
・・・・・・・・・・資料2により事務局説明(次長)
- (3) 新型コロナウイルス感染症に関する保険料の減免について
・・・・・・・・・・資料3により事務局説明(久永主任)
- (4) 「第2期保健事業実施計画」の中間評価について
・・・・・・・・・・資料4により事務局説明(山田主任)

3 その他

協議・報告事項に対する質問・回答・意見

(1) 令和2・3年度保険料率の改定について 質問等なし

(2) 令和元年度決算の概要 質問等なし

(3) 新型コロナウイルス感染症に関する保険料の減免について

【委員】 減免の申請件数の153件というのが、どう捉えていいのかわからない。

自身での申請の件数であれば、どれくらいの件数を見込んで、どのくらいの数に対するこの件数であるのか。

【事務局】 この制度は、後期高齢者医療だけではなく、国民健康保険でも同様の制度があり、県庁や各市町が住民対象の広報の中で様々な周知を行っている。この153という件数が多いか少ないかというのは何とも評価できないが、該当する方については、広報等を見ていただき申請いただいているものと思っている。

【委員】 コロナ減免で減額された保険料は最終的にどうやって補填されるのか。

【事務局】 少なくとも今年度の減免については、国費で補填される。傷病手当金についても国費で補填される。次年度の予算についてはこれからになるが、現在の仕組みでは、被保険者の方の保険料に影響することはない。

(4) 「第2期保健事業実施計画」の中間評価について

【委員】 歯科健診を今まで実施しているが、実施市町がとても少ない。それを全17市町に広げようとしてもなかなか市町が賛同してくれない。やっているところでも、受診者数がとても少ない。そこで、口腔の問題がとても多いであろう方々に対して訪問する歯科健診もあわせて実施した。ところが、医科は往診というスタイルが定着しており、歯科については、歯科医師会としても機材をそろえて体制を整えているが、受ける側の遠慮もあって進んでいかなかった。し

かし、実際に訪問してみると、寝たきりの方も多く、口腔内に問題を抱えている人が多い。そこで、ケアマネジャーや家族の方に口腔ケアについてのアドバイスを行ってきた。その中で、コロナ感染が広がっていき、令和2年度はますます数が伸びなかった。令和3年度は全市町に広げて健診を行うという計画を広域連合から提案してもらった。歯科医師会としても全面的に協力させていただき、まずは、受診者数を伸ばしていき、その結果、訪問歯科健診も併せて増えていくといったように変わっていけばと思っている。

【委員】 毎年、自身が歯科健診を受診しているが、一回当たり1,000円の自己負担がかかっているの、そういった費用も受診率の低下に関係しているのではないかな。

【委員】 健診助成対象となっていない健診では、一般診療分の費用がかかってしまう。

【委員】 健診の利用の仕方については、個別健診が伸びてきているが、集団健診についてはあまり伸びていない。この点についてどういった考察をしているのか。また、今後に向けて個別健診の拡充も考えてもよいのではないかな。

【事務局】 個別健診は徐々に増加しており、現在では多少の地域差はあるものの割合は半々となっている。地域によって医療機関数が多いところは、個別健診が多い傾向にある。県内では、がん検診と併せて健診を行っているところも多く、効率的な実施体制に向けて集団健診をスリム化しているところもあるので、そういった点が個別健診の増加につながっているのではないかな。

【委員】 気軽に相談できる身近なかかりつけ医を持ってもらおうという思いがあり、個別健診を増やしていこうという傾向にある。

【委員】 あわら市の場合では、医療機関で受診してもらっているが、健診を受けていない人の割合が多い。今後は医師会の先生方の協力を得ながら、個別健診に力を入れていかないと受診率が伸びないと思う。

【委員】 事務局から次年度の介護予防支援事業の説明があったが、看護協会としても看護職員はこれまでの病院内での勤務に加えて、専門的な知識を持った看護職員が地域に出て、健康づくり事業や疾病予防などに参加していくような政策を掲げている。この事業を各市町がどの程度取り組もうと思っているのか、高血圧や糖尿病や認知症など、どんな分野に対して希望があるのか現時点で把握していることがあれば教えてほしい。

【事務局】 来年度から新たに介護予防支援事業を実施するにあたり関係団体の方に協力を求めている。介護予防事業や重症化予防事業に対して医療の専門的な知識を基にした事業が展開できれば、さらに効果的な事業になる。
夏ごろから 17 市町に対して希望調査を行っており、ほとんどの市町から何らかの形で支援してほしいという希望が出ている。来週頃には具体的な計画がすべて揃う予定なので、結果が揃い次第伝える。歯科や糖尿病に関することや介護予防の運動や栄養指導に関する事などを現在聞いている。

【会長】 重点保健事業の中で拡充・改善事業として訪問服薬相談事業が挙げられているが、薬剤師協会から何かコメントがあれば聞きたい。

【委員】 お薬手帳の活用方法について、各薬局で皆さんに紹介しているので、ぜひ利用してほしい。今回の拡充案の拠点薬局での相談や個別相談を実施していく中で、件数が増えていくのではないかと思う。

【委員】 資料の中で中分類別の主要疾病件数や医療費が掲載されているが、全国的に比べて特徴的なものがあるか。

【事務局】 今回の資料は福井県の後期高齢者のデータとなっているが、全国と比べて順位が多少違っていても上位3位の疾病は変わらず、大差はない。

【委員】 中分類の医療費の項目を見ると腎不全が上位にきており、糖尿病から糖尿病性腎症になり、腎不全となり、透析となってしまう。医療費の面から言っても重症化予防というのは求められる。

【会長】 75歳以上に限らず、若い時からの予防が大切である。

【委員】 令和元年度の懇話会でも一体的事業の説明を受けたが、この事業では各市町で縦割りではなく、横断的に事業を進めていって欲しい。広域連合としても積極的に働きかけてほしい。市町では、保健事業と併せて総合支援事業も実施しているので、現事業を活用しながら、効率効果的な方法を十分検討してほしい。時期未定の市町もあるようだが、現在第8期の介護保険事業支援計画も進んでいると思うので、そういったところにも反映していけるようにしてほしい。

【事務局】 各市町としては、やらなければならないのはわかっているが、保健と介護が縦割りの状況で組織的にどうやっていくかを模索している。広域連合としては、夏に市町を集めた研修会を開催した。全市町で介護保険の計画も現在進んでいるので、ぜひその中に1行でもいいので触れてほしいとお願いしている。また、5~6市町から組織的にどうしたらいいのかなど、一体的事業の具体的な相談を実際に市町に出向いて行っている。来年度は医療データ等を提示する形で市町への支援を強化していきたい。

【会長】 地域担当医療専門職については、医療の専門職となると探すのが困難ではないか。広域連合の方でのサポートは考えているか。

【事務局】 国は医師から作業療法士まで幅広い専門職を対象としているが、実情では各市町ではなかなか確保がむずかしい。民間も含めて委託としても対象として

いるので、次年度からの介護予防支援事業をピンポイントで活用してもらうことで側面的な支援をしていきたい。

【委員】 後期高齢者の医療費の自己負担の2割負担の話があると思うが、国の動き等教えてほしい。

【事務局】 本来なら、今年の夏までに国が方向性を決定するとしていたが、コロナの影響もあり、年末に議論が持ち越された。新聞等によると所得の多い方に対して2割負担を検討しているとあるが、医師会からは受診控えにつながってしまう恐れがある、一方で現役世代を抱える保険者からは自分たちの負担の在り方をどうするかなど様々な意見がある。来月には一つの方向性が国から示される予定である。広域連合としては、全国の広域連合を通じて高齢者の健康を守るためにどうあるべきか、制度改正があるにしてもきちんと説明をして欲しいと国に要望している。

【事務局】 今回提示させていただきました、「第2期保健事業実施計画」の中間評価につきましては、本日のご意見を参考に再度検討させていただく。
今年度末までに取りまとめ、ホームページに掲載する予定。
次回の長寿医療運営懇話会の開催は、来年度の開催となる。
来年度は、令和4・5年度保険料率改定に向けて、委員の御意見を伺う懇話会を開催。
開催時期については、再度御案内いたしますので、御出席いただきたい。

以上